



校長挨拶

久留米工業高等専門学校は戦前の昭和14年開設の旧制久留米高等専門学校に始まります。戦後の学制改革を受けて昭和24年に九州大学久留米工業専門学校に包括された後、昭和33年に久留米工業短期大学に改組され、昭和36年には全国初の5年制の高等工業教育のモデル校として久留米工業短期大学附属工業高等専門学校に改組されました。その後、間もなくの昭和39年に現在のスタイルとしての久留米高専が設立されることとなりますが、昭和、平成、令和の半世紀以上の歴史を有して今に至っています。

我が国の高等教育機関としての久留米高専で学んだ学生は、高い専門性を有する創造的技術者になって持続可能な社会の実現を目指しますが、幅広い教養も修得して人類の福祉や平和のために貢献するという意識も持ち合わせます。大学とは違って若い15才の時から入学し、大学受験に惑わされることなく、環境問題などの人類的課題の解決を意識しながら学習することはとても有意義なことです。本校はそのための教育理念として、自立の精神、創造性、広い視野、豊かな心をかかげ、それを実現するための教育目的・目標や3つのポリシー（入学者受け入れ方針：admission policy、教育課程編成・実施方針：curriculum policy、卒業認定・学位授与方針：diploma policy）を定めてホームページなどで公表しています。

5年一貫教育としての本科は機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、生物応用化学科、材料システム工学科の5学科で構成され、本科後の2年間の進学専攻科として、機械・電気システム工学専攻と物質工学専攻の2専攻を有しています。教員の多くは、九大や東工大などの全国の大学からの出身や企業経験者で構成され、その教育・研究実績を基に優れた学生教育にあたっています。



久留米工業高等専門学校
校長 本庄 春雄

本校への志願状況は毎年良好で、福岡市、久留米市を中心とした県内各地からの入学者が8割台、佐賀県からが1割台となっています。本校での一日体験入学や福岡市と佐賀市で開催される学校説明会では多くの参加者で盛況となっています。学校生活では勉学に勤しむことはもちろんですが、ロボットコンテスト部やプログラミングラボ部などの文化部、硬式野球部やバレーボール部などの体育部があり、全国大会で受賞などの活躍をしています。高専の特徴の1つは寮があることですが、本校も男子寮の「筑水寮」と女子寮の「つつじ寮」が整備され、アジア圏からの留学生も含めて約200名弱の寮生が学生生活をエンジョイしています。本科、専攻科ともに、修了後の就職や進学状況は大変、良好で、修了生は大手企業や地元の企業への就職、全国の国公立大学などへの編入学・進学で活躍をしています。

久留米高専は、産業界や地域・社会との連携、大学などの学術・研究機関との協力でその使命を果たしております。例えば、久留米市との「事業協力に関する協定書」、一般社団法人日本歯車工業会、一般社団法人日本ゴム協会九州支部、久留米商工会議所との連携・協力協定の締結、久留米市内の4大学・短期大学と本校からなる「高等教育コンソーシアム久留米」、「テクノネット久留米」での産学民連携、九大大学院総合理工学府などとの連携・協力があげられます。

近年の急激な科学技術の進展は国の産業構造や我々の社会そのものを変貌させており、世界であろうと地域であろうと、グローバル化された社会で活躍する学生を育てる使命が本校にはあります。今後とも、久留米高専の教育・研究活動や学校運営に対して、引き続き、ご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新入生の抱負

抱負

機械工学科1年 本園 力也

高専に入学してから約2か月が経ちました。あっという間です。本当に。入学当初は休み時間でもシーンとしていた教室も、今ではほとんどの人が友達と机を囲んで、互いに教えあいながら楽しく授業を受けています。休み時間になると、クラスは本当に賑やかです。それはもう、本当に遠隔期間なの？という程に仲がよいです。皆が自然な姿で学校生活を送れているのは1年機械科の誇れるところだと思います。

さて、新入生の抱負ということですが、この文章を作成するにあたって、昨年度の先輩方の文章を拝見させていただきました。コロナ禍の苦しい中にもかかわらず、皆さんが具体的に目標を掲げ、熱意意気込みを述べていたことにとても感銘を受けました。

私が高専への入学を目指すようになったのは中学3年生に進級したばかりの頃でした。当時、私は多少勉強に自信があったので、周りよりもレベルの高い学校を目指みようと思いました。その中で久留米高専を選んだ理由は、もともと機械やコンピュータに興味があったということもですが、ほとんどが、ただ面白そうだなという単純なものです。目標などありませんでした。入学すれば自然と湧くだろうと思っていましたが、未だにパツとしないままです。

そのため私は、自分が目指すものを見つけるために、2つの事を抱負として掲げようと思います。

1つ目は、日々勉学に励むことです。やはり高専で学ぶ内容は中学校に比べて難しく、これまでと同じような取り組み方では、いずれついていけなくなると実感しました。日頃からより深い知識として身に付けることで、自分の選択肢を広げ、より多くのものに手が届くようにしていきたいです。

2つ目は好奇心をもって接することです。機械工学科では様々な分野の知識を得ることができます。その1つ1つに興味をもって接することで幅広い視野を養っていききたいです。

この作文は私にとって自分を見つめるいい機会になりました。このような学校広報誌で書いたからには有言実行できるように精一杯努力しようと思います。

無題

電気電子工学科1年 出水 惺

高専に入学して早二か月。すっかり進みの速いリモート授業にも慣れたものだ。

去年も先の一文となんら変わらないことが書かれていた。それだけ新型コロナウイルスが猛威を振るっているということだ。

通学する際に通るルートが感染対策上危険なため、『できるだけ登校してほしい』という授業に私は出られていない。そのため何もかもが心配だ。走れていない持久走。追われるテスト勉強。次々と襲い掛かる課題。脳裏によぎる留年…（早過ぎる）

そんな私が何故ここに入学したのか。専門性の高い環境で磨かれると万物に共通する真理が見えてくる、この学校の自由な雰囲気個性が個性豊かな人材を創っている、と感じたからだ。

私は最近の社会に『個性の二極化』を見出している。これは何かの文献や新聞の社説等を参考にしたものではない。この現代社会においてSNSは若者をはじめ、非常に大きな力を持っている。そしてそんなSNSや公の場で活躍する有名人は皆輝かしい個性を持っている。何かしらの才能、身体能力、感性、運…挙げればキリがない。そして一般人は、そんな有名人と己を比較するのだ。そしてその違いを感じる。

その違いに絶望した者たちは無個性化する。日本人がお得意の同調だ。他人と好みを合わせようと努力する。嫌われないようにする。凡庸になろうとする。個性は眠っているかもしれないのに。その違いを求めて自らに何らかの才を見出そうとする者こそ、現在各界隈で輝いている者であることは言うまでもない。私もそのような者になりたいと思う。

私は『努力』が好きではなく、好きなことにしか目がいかないタイプ人間だ。人見知りもする。人の話をあまり聞いていないときもある。しかし、この久留米高専においてはそこまで珍しいタイプではないはずだ。ここまでクセの強い人間は、そうそういないと思いたいが。あまりにもありきたりで悔しいが、交流する機会があれば、高専生としての上手い過ごし方等、ご指導のほどよろしくお願いします。

新入生の抱負

私たちの未来

制御情報工学科 1年 八尋 由夏

前年に引き続き新型コロナウイルスが猛威を振るう2021年の春、私たちはこの久留米高専に入学しました。入学式や校内研修は時間短縮などの措置がとられながらも無事に開催され、私たちは夢にまで見た高専生活をいよいよスタートさせることができました。しかし、5月の連休明け以降、感染拡大の影響を受けて遠隔授業週間が延長となり、「毎日学校に登校し、クラスの仲間と協力しながら学ぶ」という日常は消え、1年制御科は週に一回のみの登校となってしまいました。この事態がいつ終息するかもわからない、そのようななか、私たちの未来はどのようなものになるのでしょうか。私たちは明るい未来をつくるために、今できることを考え、実行していかなければなりません。

5年間の高専生活のなかで私が頑張りたいことは、何事にも積極的にチャレンジすることです。高専には、一般高校とは比べものにはならないほどの「自由」があります。努力する人を押し上げてくれるチャンスもたくさんあります。その自由やチャンスを最大限に活用し、自分発信で多くのことにチャレンジしていきたいです。また、同時に、明確な目標をもって取り組むことも大切にしていきたいです。人は、「目標を立て、達成する」を繰り返すことにより、段階的に成長することができるからです。

クラスとして頑張りたいことは、各自が自分自身の目標に向かって協力し合い、切磋琢磨できる関係性を築くことです。ただし、6月中旬の現在、クラスメイトと対面してコミュニケーションをとることができない状況では、そこまでの深い関係性を築くことは難しいのかもしれませんが。対面授業が再開される日が待ち遠しいです。

私を含め、高専に入学する学生は、ある程度将来の夢が定まっている人が多いと思います。そのような私たちだからこそ、将来を見据えた行動をし、この5年間を自分の夢のために費やさなければなりません。「私たちの将来」を創るのは、私たち自身です。未来に向かって一歩ずつ、確実に、進んでいきます。

スタートした私の高専生活

生物応用化学科 1年 波多江 芽衣

中学3年生の4月。理系の道に進みたいという気持ちはあったものの具体的な目標がなかった私は進路先の志望校を中々決められずにいました。私たちが受験を迎えた年。社会は新型コロナウイルスを中心にまわっており、世界中で進んでいるワクチン開発についてのニュースが毎日のように取り扱われていました。その開発のスピードは現代の科学技術のすごさを表しているようで理系の世界での最先端は毎日更新されていくことを感じた私は大学からでは遅い、高校から専門的なことを学んでいきたいと考えるようになりました。

そんな私にとって1年生から専門授業が組み込まれている久留米高専は魅力的でここに行くためなら勉強も頑張りたいと思わせてくれました。そして届いた合格通知。普通校より多い化学と生物の教科書や自分の名前が入った白衣にちょっとした高揚感を感じながら久留米高専での生活をスタートしました。寮での集団生活、時間が長く難しい授業、様々なことが初めてでしたが慣れると楽しさが増えていきました。しかし5月から授業が遠隔になり、教室で友達と会うことができずにパソコンに向かって授業を受けるだけの日々が今も続いています。楽しみにしていた実験や挑戦してみたくて入部した部活もできないこの生活は入学時に思い描いていたものとはかけ離れており、早く普通の学校生活に戻って友達と楽しい時間を過ごしたいです。

また、私は1年生の間に化学や生物の中で自分が好きなもの、興味ある分野を見つけることが目標です。体験入学で自分が行っている研究の話をしてくださった先輩方はすごく楽しそうにキラキラしていてその分野が好きということがとても伝わりました。そういった先輩方みたいになれるように今は一つ一つの授業を大切にしていきたいと思います。また高専は私にとって最後の学ぶ場です。習って学ぶ習学ではなく学びを修める修学で5年間努力して悔いのない卒業を迎えたいです。

新入生の抱負

The sky is the limit

材料システム工学科1年 野口 夏都

高専に入学してから約2ヶ月がすぎました。小学生の6年生時から志望していて、必死に勉学に励んで、掴み取った高専への切符。その嬉しさと感動は今でも胸に残っています。

入学してまもなく、本格的な授業が始まりました。ですが、コロナウイルスの影響により、途中から遠隔授業へと変わり、学校に登校できない日々が続きました。当たり前前の方が当たり前前に行えることがどんなに有難いことかというのは昨年からは痛いほど知らされてきました。入学当初から楽しみだった文化部発表会もなくなってしまい、また、実行委員会の活動もできていないのでとても残念です。ですが、学内研修のクラスマッチが遠隔ではなく、みんなでそれぞれサッカー、バレーボールが出来て、とても嬉しくて、楽しくて、充実していました。そのクラスマッチでクラスメイトの仲が深まったり、意外な一面を知ることが出来たりとたくさんの収穫が得られました。早くこのコロナが終息をし、クラスメイトのいる空間で授業を受け、クラスメイトだけではなく色々な高専生と交流したいです。

「高専の授業が難しい」それが今の私の現状です。理解するのにとても時間がかかってしまいます。でも、そんな時、助けてくれる友達があります。分からない問題があると、その友達に解き方を教えて貰っています。本当に有難いです。

また、7月の下旬からは期末試験が始まります。自分の納得のいく点数が取れるように、毎日コツコツと勉学に励み、ちゃんと結果を出していきたいです。

私の高専での目標は、「色々なことに挑戦する」です。ざっくりした目標ではありますが、この5年間で中央執行委員や実行委員などたくさんのことに積極的に参加できることは参加していこうと思います。現在、実行委員会に入っていて、現状では種々の高専行事が行われるかはまだ分かりませんが、今は活動ができるのが待ち遠しいです。

まだまだ私達の高専生活は始まったばかり。5年後の進路に向けて、クラスメイトや高専の方達とともに切磋琢磨しあい、協力しあっていきたいと思っています。高専生活を楽しみましょう！

みんな違って、みんなどうでもいい

機械・電気システム工学専攻1年 吉田 堯史

私は専攻科に入学するまでに久留米高専の卒業生として、式典や様々な大学卒業向けイベントにて、数々の祝辞や励ましの言葉を頂いてきました。私はこれらの言葉を、例えば高専の専攻科や大学院に進学する学生であったとしても、この節目を意識し、自身を振り返り、目標を立て、春からの生活を送ってほしい願いだと捉えています。そこで、ある芸術家から寄せられた祝辞から、自身を振り返り、今回改めて専攻科の目標を立てました。

その言葉は「みんな違って、みんなどうでもいい」です。「みんな違っていい」とは、人それぞれに異なる価値観やプライオリティ、個人の活動や身体的個性を多様性として尊重し合おうということです。今面白いと思うことも、何か自分で作品を作る・投稿する・評価される、SNSやゲーム上の充実したコミュニケーション、スポーツ、独学や研究など、人それぞれで方向性も様々ですが、全て尊く素敵です。

さてここで、「みんなどうでもいい」について思考する中で、自分自身が、多少なりとも無意識に自分の考えを他人に押し付ける人、また他人の目や意見を気にする人だったと気づきました。例えば昔「〇〇君、彼女いる？」などと言ったことがありましたが、これは彼の趣向を決めつけています。他にも、他人の嫉妬や、変なレッテル貼りの恐れなど「みんなどうでもよくない」と思ったために、挑戦を躊躇してしまいました。

私の専攻科の目標は、常に自律し、他人に囚われず、恐れず、窮屈にならず、もっと自由に、自分の考えと価値基準をどんどん強く持ち、かつその価値観を他人に押し付けないように、無意識に行動できる人間になることです。

私は、この目標を達成することで、同時に専攻科生として継続的に学び・考える科学技術の知識や技能を生かし、「輝く今日とまた来る明日」を共に創り続ける人材になります。

新入生の抱負

私の抱負

物質工学専攻 1年 池上 沙良

私の抱負は、毎日コツコツ目の前のことをこなすことです。簡単そうに思えて、本当に難しい能力であることを、多くの方が実感したことがあると思います。目標に到達しなかった時に、あのときやっておけば今頃…と、後悔した経験のある人がほとんどに関わらず、そのほとんどの人はまた同じことを繰り返すのではないのでしょうか。それほど、毎日コツコツこなすということは難しく、忍耐力がいるということです。

私は、要領がいいと言われることがあります。秀でてこれは得意だと言い張れるものはないですが、だいたいのことは、こなせる方であるということです。もちろん、それが役に立つことは多くあります。例えば、飲食店のアルバイトでは、食事の配膳、片付け、お会計などを一人でこなしているため、スムーズで無駄がないように頭の中で優先順位を立てながら動いています。しかし、勉強面において、要領がいいなどはむしろ悪影響であると思います。コツコツできる人との間に、いつの間にかできた大きな時間の差には、絶対に敵わないからです。

そんな私でも、継続して2年間程、できた試しがなかった貯金を続けられています。毎日家に帰ったら、お財布の中の小銭を貯金箱に入れようと決めてから、それが習慣になりました。何かを成し遂げるためには、強い気持ちとやる気がいくらあっても駄目なのだと思います。やる気が出ない日が来たら、今日の方は明日しようと思えたり、今日は疲れているからと、言い訳をしたりするからです。これは、勉強面や他の事においても言えることです。大事なものは、気持ちに左右されずに、機械的にこなすことです。どうしても気分がのらない時でも、我慢して我慢してやっている、やってやったという優越感が快感になり、習慣化するのだと思います。最初はきつくてやめたくなる時が来ても、明日のことは考えずに、今日だけ頑張ろうという気持ちで、毎日の課題や勉強をこなしていきたいです。

本科1年生クラス担任紹介

色々経験しよう

機械工学科1年担任 一般科目(理科系)講師 沖田 匡聡



数学の授業を担当しています。数学は初めて見る学んだことのない問題でも解けることがあります。今まで解いたことのないタイプの問題でもしっかり勉強していれば、これまで学んだことを活かし応用し、視点や発想を変えることで、問題の解決に至ることはたくさんあります。しかし、解き方を知っている問題、一度解いたことのある問題の方がずっと簡単に解くことができます。このようなことは数学以外の問題でもあります。今後みなさんの人生においてたくさん問題に出会うと思います。その時のために学生の中に、多くのことを学び、経験し、様々な視点や考え方に触れておいてください。今後色々な問題の解決に役に立つと思います。

広い視野を持って

電気電子工学科1年担任 一般科目(文科系)教授 福田 かおる



低学年では英語を教えますが、専門は社会(文化)人類学です。世界の多様な社会や文化を、現地での生活を通して研究する分野です。私自身はイギリスと日本で調査を行い、他の人が世界中から集めた事例も学んできました。同じクラスの中でも一人一人生き方や考え方が異なりますが、世界に目を向けると、はるかに多様な暮らし方や価値観が存在します。多様な生き方を知ることは、自分自身の生き方を考える際の視野を広げ、選択肢を増やすことにつながります。これから未来を切り開いていく皆さんが、自分の将来の可能性を広い視野で見通すことができるよう、応援したいと思っています。

「自由」と「時間」の使い道

制御情報工学科1年担任 一般科目(文科系)助教 常木 佳奈



1Sのみなさんへは入学式の日にもお話ししたとおり、高専生には多くの「自由」が与えられています。また、比較的早い時間帯に授業が終わる日もありますし、春・夏季の休みも高校よりは長く設けられているため、「時間」にも余裕があるはず(もちろん、学年が上がるにつれて、研究や就職活動・進学準備で授業以外の時間も忙しくなりますよ)。その自由や時間の使い道は、みなさん次第です。小説や映画、美術作品に触れてみたり、資格や検定試験にチャレンジしたり…。新型コロナ禍においては行動に制約がありますが、そのような今だからこそ、知識や力をじっくりと身につけてください。それらは必ず、みなさんの役に立つ日がくるはずです。

本科1年生クラス担任紹介

学校生活を楽しみましょう！



クラスにも慣れてきたというところで遠隔授業となり、クラスの友人と直接話せる機会が減ったと思います。その点に関しては、とても残念だと思います。しかし、このような困難な状況だからこそ、いろいろな挑戦し、失敗し、成長して欲しいと思います。生活などに多くの制約がある今、不満を抱えている学生が多いと思います。この状況をうまく乗り越え、来年や再来年には、笑顔で楽しく学校生活を送れることを願っています。しばらくは、制限が続くと思いますが、そうした中でも楽しんで学校生活を送ってもらえると幸いです。よろしくお願いいたします。

生物応用化学科1年担任 一般科目(理科)助教 中村 駿介

目標を持ち高専生活を過ごして



化学を担当しています宮本と申します。新型コロナの影響で遠隔授業が実施されましたが、いかがでしょうか。ワクチン接種が更に進めば、安心して高専で対面授業ができるようになると思われます。私は有機化学が専門で、機能性有機材料や医薬品の基本骨格になる試薬の開発を目指しております。クラブ顧問は、サッカー部を担当しています。何か一つでも目標をもって、高専生活を過ごしていかれることを希望します。校内研修のクラスマッチで1年材料システム工学科が1位になった勢いで、クラス全員の進級を目指して、しっかり学習されることを期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

材料システム工学科1年担任 一般科目(理科系)教授 宮本 久一

留学生紹介

電気電子工学科3年 アマラ

初めまして、アマラバヤルと申します。モンゴルから参りました。4月に電気電子工学科の3年生として編入学しました。両親は日本の東北大学を卒業しましたので、私は子供の頃から日本という国に憧れていました。両親と同じ日本に留学し、日本の優れた技術を学びたいと高校の頃に思っていました。その思いを叶えることができ、夢にたどり着く第一歩となったと思います。これからももっと努力していきたいと思います。また、日本に留学することで色々な人に出会い、人間関係や知識を増やすことができるので、これからもっと成長できると思います。

初めて学校に来た頃は、分からないことが色々ありましたが、担任の先生やクラスの皆のおかげで、たくさんのお話を学ぶことができました。私の好きなスポーツは、バスケットボールと水泳なので、バスケット部に入学しました。部活のおかげで他のクラスの人たちとも仲良くなることができ、より楽しい高専生活を送ることができています。また、勉強や生活で何か困ったことがあった時に助けてくれる先生やクラスメイトがいて、自分は恵まれていると感じています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

制御情報工学科3年 ヴィッド

はじめまして。カンボジアから来ました。イアン・ヴィッドと申します。ぜひヴィッドと呼んでください。今年の4月に久留米高専に来て、その前は、東京日本語教育センターで約半年の間、勉強していました。私は現在、制御情報工学科の3年生です。久留米高専に初めて来た時は、緊張していました。なぜなら日本語が苦手で、日本人の友達を作れるのかわからなかったからです。でも、先生や友達も優しくとても安心しました。

ところで、僕の趣味は音楽を聴くことです。特に、ポップとR&Bを聴きます。歌うのがとても好きです。少しずつ日本の生活にも慣れてきました。前まではホームシックでしたが、それもなくなりました。日本に留学した理由は、知識とスキルを身につけるのに一番いいと思ったからです。今後、至らない点があるかもしれませんが、頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

新任主事紹介



知の高速道路

教務主事 黒木 祥光

新型コロナの影響で遠隔授業などのICT環境における学びが一気に進みましたが、情報科学教育の世界では、既に10年くらい前からICT環境での学びが行われています。今後、それが様々な分野に広がると予想されます。プログラミングラボ部の設立から学生指導に携わってきた経験を踏まえ、ICT環境における学びについて私見を述べたいと思います。

高校生以下の情報科学教育として、情報オリンピックが最も有名ではないでしょうか。日本の活動は2005年に本格的になりました。国内の上位4名が代表として翌年度の国際情報オリンピックに参加し、金メダル2名、銅メダル1名の結果を収めています。本校の学生はパソコン甲子園で金メダリストの片岡基君に挑み、2位の成果を残しているのは誇って良いことでしょう。唯一メダルを逃した秋葉拓哉君はその悔しさをバネに大学対抗のコンテストACM-ICPC世界大会で銅メダルを獲得しています。彼は「蟻本」の著者としても知られ、現在は国内で最も勢いのあるベンチャー企業、Preferred Networksで執行役員を務めています。

彼のような優秀な高校生が成長し、後進に良質な教材を提供したり、直接助言したりします。すると、次世代の高校生が更に能力を上げ...といった正の循環が生じます。また、PCとネット環境があれば誰でもコンテストに参加できますので、レベルの上昇と共に低年齢化が進みます。実際、今年2月の日本情報オリンピック本選優秀者17名(高校2年生以下)に中学生が4名含まれています。つまり、ICT環境の発達により、やる気がある人は早く、かつ好きなだけ学べる「知の高速道路」が出来ています。間もなく自動翻訳AIにより、海外のコンテンツで学ぶことにもなるでしょう。「知の高速道路」は誰に対しても開かれていますので、秋葉君の様に巻き返すことも可能です。是非ご自身の「知の高速道路」に乗って、深い学びを実現してください。



寮生に望むこと

寮務主事 辻 豊

高専の学生寮では、15歳から22歳の学生が共同生活をしています。この幅広い年齢層が教育寮としての魅力になっています。4月に入寮した新入生はどこか頼りなく、正直、「大丈夫かな?」と思ったものです。

あれから、2か月、新入生たちの顔つきがシャキッとしたように感じます。これも優しい先輩たちの指導によ

り、寮生活を営む上でのルールなどを教えてもらい、「自立」「自律」が進んでいることの証でしょう。新入生たちは保護者の元を離れて生活することにより、「生きる」うえで大切なことをたくさん学んでいます。それと同時に上級生たちも「教える」ことや「コミュニケーション能力」を磨き成長しているのです。この相乗効果こそ高専の学生寮の魅力なのです。新入生の皆さんには、入寮した時の「不安な気持ち」や「困ったこと」、困ったときに先輩たちに助けてもらった時の「感謝の気持ち」を忘れずに成長してもらいたいと思います。来年の4月には新入生を迎えることになります。その時には新入生の時の気持ちを忘れずに後輩たちに接してもらいたいものです。

さて、寮内を歩いていると、落とし物を見つけます。誰も気が付かないのか不思議に思います。「気が付く」ということは大切な能力です。気が付かなければ行動に移すことはできません。工場の異音・異臭に気が付けば未然に事故を防ぐことができるかもしれません。研究室でフラスコの中の異変に気が付けば、その異変がノーベル賞級の発見につながるかもしれません。気が付くという能力は、日ごろから関心を持ち、観察することにより養われるところがあります。寮が自分たちの生活する空間であることを常に意識し、より生活しやすい寮にするためにという視点で寮を観察してください。そして、気が付くことがあれば、何をしなければならぬかを考えて、行動してください。この「考えて、行動する」ことが大切です。

これを実行しないと、だんだん意識なくなり、気が付かなくなります。ごみが落ちていたら、汚れたところがあったら、ごみ箱からごみがあふれていたら、……。あなたの行動が、寮をきれいにします。そして、あなたの未来も変えるかもしれません。

高橋先生と横溝先生とよりよい寮を目指して頑張っています。よろしく!



Strike while the iron is hot

専攻科主事 川上 雄士

今年度から専攻科主事を務めることになりました、材料システム工学科の川上です。どうぞよろしくお願いいたします。皆様もよくご存じのように、専攻科は本科での5年間を卒業した学生が、さらに2年間の教育を同じキャンパスで行う課程で、修了後には大学卒業と同じ工学士の学位が授与されます。世間的には、大卒相当となりますが、我々教員は、専攻科生は大学院生に相当するものとして捉えています。本科5年生で1年間の卒業研究を経験し、その後の専攻科研究は、まさに大学院での研究に相当するものと考えています。教員も、高いレベルでの研究に対応できるように研鑽を積んでいます。

新任主事紹介

専攻科の学生は、専攻科での研究を単純に本科の延長とは考えずに、一つレベルアップした研究ができるように心がけてください。レベルアップした研究として、是非、自分の研究結果を学会発表などで世間に問うてください。外部で発表を行うにあたっては、大きな苦労があると思いますが、それは後日、必ず大きな成果となって皆さんに帰ってきます。皆さんの年代は、何をやるにしてもゴールデンエイジなのです。頑張ってやったことが、必ず身につきます。自分の好きなことを見つけて、専攻科に進学してきた皆さんなので、いろんなところで叩かれ、鍛えられてください。新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響で、海外との直接的な交流が制限されていますが、できることならば若いうちに海外を経験し、ここでもたくさん叩かれ、鍛えられてほしいと思います。時機が来れば、専攻科でもそのようなチャンスを作っていきたいと考えています。

さて、令和5年度からは、専攻科と九州大学の間で「九州大学工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラム」が始まります。現本科4年生以下の学生が対象になりますので、興味のある本科生は、今後開催されるインターンシップなどのイベントに積極的にチャレンジしてください。



様々な企画に チャレンジを！！ 企画主事 酒井 道宏

今年度より企画主事を拝命しました一般科目（理科系）の酒井です。どうぞよろしくお願ひ致します。主事補にお迎えした一般科目（文科系）の藍澤先生と生物応用化学科の萩原先生、総務課総務係の事務職員さん達と業務を行っています。主な業務は、機構に対応した本校の中期目標・計画の立案、HP等による広報活動、留学生の受け入れや本校学生の海外派遣などの国際交流活動、女子中高生の理系進路選択支援（リケジョ）プログラムによる男女共同参画の推進等、多岐にわたります。

皆さんに直接関係するのは、国際交流とリケジョプログラムです。国際交流は、実際に現地で様々な体験をする事が大切だと考えています。私自身もイギリス留学は人生の中でも特別な経験です。現在、すぐに海外留学というのは難しい状況ですが、オンライン交流会等を通して皆さんの海外へのマインドを高めていければと考えています。リケジョでは、女子中学生向け公開講座でのTA、中学校の進路説明会での発表を女子学生の皆さんの活躍の場として提供しています。

また、女子学生に限らず、様々な企画を予定していますので、皆さん気軽にチャレンジして下さい。

新任教職員紹介



徳永 美紀

- 所属 一般科目（文科系）
- 職名 教授
- 採用日 令和3年4月1日
- 前職 福岡女学院大学 短期大学部

抱負： 英語担当の教員として着任いたしました徳永美紀です。専門は英語教育で、学んだ知識をどのようにスキルにしていくかという点に注目し、研究を行っています。ずっと大学で英語を担当してきましたが、久留米高専の1年生は、中学を卒業したばかりという事を忘れてしまうほど英語の基礎がしっかりしていると感じています。せっかく勉強してきた知識が、コミュニケーションや、国際的な技術者のスキルとしても役立つような授業を行っていきたいと思っています。発音にはうるさいですが、発音を習得する事で自分の英語が通じやすくなるだけでなく、リスニング力もグンと伸びますので、頑張ってください。早くコロナが収束し、皆さんのマスク無しの顔を見て授業ができる日を楽しみにしています。

趣味： パンやお菓子を焼くこと、ヨガ、散歩、ジオキャッシング（という名の宝探し）



木山 博志

- 所属 事務部
- 職名 学生課長
- 採用日 令和3年4月1日
- 前職 国立大学法人九州大学
医系学部等総務課総務第一係

抱負： 4月に九州大学より転任して参りました。今までは総務の経験が多く、初めての学生系となります。学生系の仕事は初めてなので、色々と不安はありますが、今までの経験を活かしながら積極的に課題に取り組んでいきたいと思っています。※目下の課題は、オフィス365の操作に早く慣れることです。

趣味： 映画鑑賞



福原 一雄

- 所属 事務部
- 職名 用度係長
- 採用日 令和3年4月1日
- 前職 国立大学法人九州大学
施設部施設企画課工事契約係長

抱負： 4月より、総務課用度係へ転任してまいりました福原と申します。

高専での仕事は初めてなので、教職員の皆様にご指導をいただきながら、一つ一つの課題に丁寧に取り組み、一日も早く本学の学生及び教職員の皆様のお役にたてるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

趣味： 週2回のジョギング

新任教職員紹介



大田 幸平

- 所属 事務部
- 職名 総務課一般職員（施設係）
- 採用日 令和3年4月1日
- 前職 国立大学法人九州大学施設部
環境整備課

抱負： 前職は九州大学施設部で、キャンパスの施設整備、保全関係の業務を担当していました。私は電気設備関係の業務を担当していましたが、久留米高専の施設係では電気設備も含め、建築、設備、衛生関係の整備と多岐に渡る業務を担当します。構内のライフラインの整備は、皆様が生活する中で欠かせない要素となるもので、そのような業務に携わる事に、強い責任を感じると同時に、非常にやりがいを感じています。教職員の皆様や学生の皆様が過ごしやすい環境を整えるため、日々の業務を努めて参ります。まだまだ未熟者ではございますが、これからよろしくお願いたします。

趣味： ・野球
・ゴルフ（練習中）
・音楽鑑賞



垣迫 武志

- 所属 事務部
- 職名 総務課一般職員（総務係）
- 採用日 令和3年4月1日
- 前職 大分県 豊後高田市立真玉小学校
（豊後高田市立学校支援センター）
臨時事務職員（財務担当）

抱負： この度、総務課総務係に配属されました、垣迫武志と申します。今年3月までの約6年間、大分県内の小学校、中学校で臨時事務職員として勤務しておりましたが、今回高等教育機関で勤務することとなり、現在まで手探りの日々が続いている状態です。

ですが、今までの学校現場での勤務経験を活かし、少しでも本校に貢献できるよう、努めて参ります。ご指導・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願致します。

趣味： ・野球（母校は今年3月に行われた選抜高等学校野球大会で準優勝しました）
・大分トリニータ 試合観戦（同じ九州のチームとの対戦時は、特に燃えます）



浅井 浩文

- 所属 事務部
- 職名 学生課再雇用職員（学術情報係）
- 採用日 令和3年4月1日
- 前職 有明工業高等専門学校事務部長

抱負： 昭和59年に国立大学に採用後、37年間、関東、関西、九州の11機関に勤務してきました。本年3月末で定年退職となり、4月から再雇用職員として本校図書館でお世話になっています。窓口業務は30年振りとなりますが、皆様のお役に立てるよう努めてまいりますので、よろしくお願いたします。

趣味： 野球観戦、映画鑑賞



木林 透

- 所属 事務部
- 職名 学生課再雇用職員（寮生活支援係）
- 採用日 令和3年4月1日
- 前職 岐阜工業高等専門学校事務部長

抱負： 今年の3月に定年退職し、この4月から久留米工業高等専門学校で短時間再雇用職員としてお世話になっています。これまで、霞が関や大学等で高等教育行政に携わってまいりました。実務は23年ぶりですので、皆様には何かとご迷惑をかけるかと思いますが、よろしくお願いたします。現在学生寮は新型コロナウイルス感染予防対策を重点的に実施しています。残念ながら、施設設備や備品の老朽化に伴う各種の不具合が連日のように発生しています。寮務主事及び寮務主事補の先生が毎日学生寮に見えて、寮生指導・相談や生活改善対策を検討・実行されています。私も微力ながら学生の寮生活の向上にお役に立ちたいと考えています。

趣味： 釣りを少々しています。東京等では、主に湘南等でショウワや船で釣りをしていました。沖縄では本島や離島で大物を狙っていました。福岡は玄界灘に面しているので、休日に釣りを楽しもうと考えています。



國分 正則

- 所属 事務部
- 職名 総務課非常勤職員（施設係）
- 採用日 令和3年4月1日
- 前職 家電専門店（ヤマダ電機）販売職

抱負： 体力面での心配があったのですが、先輩の寺崎さんのアドバイスと同僚の榎藤さんのアイデアで、何とかうまくやれております。

皆様の学び舎ですので、計画的な仕事で、スッキリした景観と安全な場所が維持できる様に頑張っていきたいと思います。

趣味： 海釣り
読書（サスペンス、歴史物、マンガも読みます）



榎藤 幸志

- 所属 事務部
- 職名 総務課非常勤職員（施設係）
- 採用日 令和3年4月1日
- 前職 自営業（屋根瓦工事）
施設警備（久留米大学医学部）

抱負： 以前60歳で直腸ガン、65歳で心臓病を患い、大手術をして全て完治。健康第一を実感しています。現在の職務は自分自身に合っていて、達成感があります。

今後も長く仕事ができる様に身体を気遣い、上司の方に迷惑をかけない様、頑張りたいと思います。宜しくお願いたします。

趣味： 日曜大工、釣り（エギにてイカ釣り）

学生の取り組み

「eスポーツ」にてクラスマッチを開催

5月19日（水）、20日（木）に、中央執行委員会の制御情報工学科5年の竹見尚也さんと生物応用化学科5年の高橋凌雅さんの運営のもと、「eスポーツ」にてクラスマッチを実施しました。例年、クラスを超えた交流会の場として、バレーやバスケットなどの運動種目で、クラスマッチを開催しております。クラスマッチは1年生から5年生まで一同に会する学生にとっては貴重な場となっています。

本年はコロナウィルスの感染防止対策のため、5月19日（水）20日（木）は遠隔授業期間となっておりました。この遠隔授業期間においても、学年を超えた学生間の交流場の設けるため中央執行委員会の学生が「eスポーツ」でのクラスマッチを企画・運営いたしました。2日間の競技参加者は合計240名、観戦者は合計311名となります。

はじめての試みではありましたが、無事競技5種目（マリオカート、クラッシュ・ロワイヤル、VALORANT、スプラトゥーン、スマッシュブラザーズ）を実施し、遠隔授業期間ではありながら、学生の交流場を設けることができました。



【eスポーツの準備・配信をしてくれた竹見尚也さん、高橋凌雅さん】

学生が久留米市の環境啓発動画「分別救助隊ワケルンジャー」を制作

6月5日の「世界環境デー」にちなみ、例年久留米市が開催している環境フェアが、今年からWEB開催となり、そのメインとなる環境啓発動画「分別救助隊ワケルンジャー」の制作を、本校プログラミングラボ部の石橋 要さん（制御情報工学科3年）と近藤 碧さん（制御情報工学科3年）が行いました。

この動画は、久留米市環境部から依頼を受け、海洋プラスチックごみ削減などの環境問題を大人から子供まで分かり易く伝えることができるよう、戦隊ヒーロー動画を市と協働で制作したもので、石橋さんと近藤さんは、久留米市宮ノ陣クリーンセンターで撮影した動画を持ち帰り、学内で編集作業を行いました。

現在2本のYouTube動画が久留米市のHPにおいて公開されており、6月の「環境月間」に合わせて全8本の動画が随時更新される予定です。

（久留米市環境ポータルサイト ecoco「エココ」）

<https://www.city.kurume.fukuoka.jp/1050kurashi/2030kankyougomi/3005portal/>



【撮影風景】